

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 4月 6日

研究・研修課題名	骨髄検査技師制度認定試験受験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	兒玉 るみ
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

① 目 的

医療技術の進歩と普及に伴い、良質な医療における検査血液学の重要性が増大し、検査血液学を専門とする検査技師の役割は大きい。専門的人材の育成には、系統的・継続的な生涯教育が必要となる。検査血液学会では認定制度の目的として「骨髄検査等血液形態検査における専門知識および高度な判定能力を有する検査技師の育成を図り、血液形態検査の水準向上とその標準化を普及させることにより、全国の血液診療の質向上に寄与することにある」としており、本院においても骨髄検査の報告書を的確に作成し臨床へ高い精度の報告をするために、資格取得をめざす。

② 方 法

【骨髄検査技師認定試験受験資格確認】

1. 認定血液検査技師の資格取得をしてから一度更新（5年に一回）した者。
2. 申請時において5年異常の骨髄検査の実務経験を有していること。
3. 症例提出書（20症例）の提出と骨髄検査技師養成セミナー受講。
4. 学術論文、学会発表等の業績、学会、研究会の参加による骨髄検査技師申請の資格審査基準の必要な単位を取得していること。
5. 申請時には直前申請年度分を含む最近5年間に、日本検査血液学会学術集会または、日本検査血液学会が主催する冬季セミナーに1回以上参加していること。
6. 骨髄検査技師養成セミナーにて受験可能なレベルに達していると認められたもの。

以上の受験資格を有することを確認した。

【骨髄検査技師認定試験受験】

骨髄検査技師養成セミナーにて受験可能なレベルに達していると認められた後3月1日の本試験が受験可能となる。

③ 成 果

1. 骨髄検査技師養成セミナーの受講
日時：2014年9月6日（土）13：30～18：30
2014年9月7日（日）8：00～14：00
会場：帝京大学板橋キャンパス

6日：各講義を受講した

① 細胞判定トレーニング

末梢血、骨髄、体腔液の細胞写真を見て判別。後で細胞判定の講義、および体腔液の解説があった。

② 顕微鏡の取り扱い方についての講義

基本調整法を中心にした講義であった。

③ 骨髄標本の観察の仕方についての講義

骨髄標本の観察手順の解説後骨髄像の評価留意点について実際の標本をスライドに示しながら詳しく説明があった。

④ WHO 分類における遺伝子検査

7日：骨髄検査技師レベル確認の為の実技検定受験

検定Ⅰ：細胞分類 細胞判定、骨髄細胞+末梢血・その他 写真 60枚

検定Ⅱ：バーチャル バーチャル操作法説明および実技1症例、所見記入+カウント

検定Ⅲ：顕微鏡 所見用紙作成および評価者とディスカッション

*検定Ⅰ 骨髄・末梢血・その他合わせ 60枚の写真进行分类

*検定Ⅱ 70分のうちにカウントと所見記入を行う。

*検定Ⅲ 受講者4名に原則評価2名（医師1名、技師1名）

顕微鏡観察し、所見を作成（25分）

グループで鏡検しながら、8分ずつ評価者の前で発表（計32分）

グループディスカッション（10分）

骨髄検査技師養成セミナーにて受験可能なレベルに達していると認められ、本試験受験資格を得た。

20症例の骨髄試験症例提出書および骨髄検査所見を提出。

2. 骨髄検査技師認定試験受験

日時：2014年3月1日（日）8：30～16：00

会場：帝京大学板橋キャンパス

① 筆記試験は出題数 50 題。問題回答は多肢選択問題（A タイプ、X2 タイプ、タキソノミーⅠ～Ⅲ、視覚教材使用）

② 実技試験は 4 科目（細胞形態試験 2 科目、バーチャル画像試験 1 科目および顕微鏡実地試験 1 科目）で実施された。細胞形態試験は、骨髄と骨髄以外（末梢血、リンパ節、体腔液など）の 2 科目それぞれについて、写真画像の分類を行った。問題回答はマークシート方式、バーチャル画像試験は骨髄 1 症例について、それぞれ細胞の細胞カウントと標本観察所見の記載を行った。顕微鏡実地試験は骨髄標本 1 症例の顕微鏡観察と症例提出書の作成ならびに所見説明を行った。

3. 結果

合格発表は4月末の予定。骨髄検査は各種造血器疾患の診断には不可欠な検査であるが、その判読には血液形態検査における専門知識および高度な判定能力を必要とする。今回の受験により、顕微鏡の取り扱い方や、骨髄標本の見方の基礎、WHO 分類についての再確認、遺伝子との関係を学ぶことができた。骨髄検査技師認定資格の取得により、血液形態検査水準や診断精度の向上に貢献できる。